

【資料 5】

立地適正化計画 分析データ（例 2） 【地区の現状】

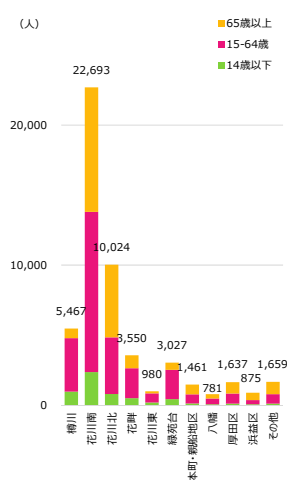
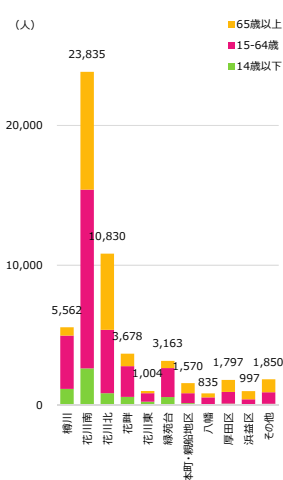
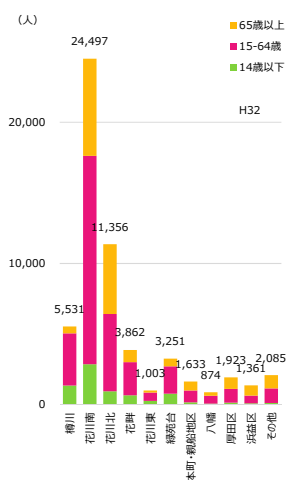
6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】②

将来人口 ※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩地域の市街化区域外人口です。

【H27（2015）】 57,376人

【H32（2020）】 55,121人

【H37（2025）】 52,154人



資料：平成27（2015）年国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】③

将来人口 ※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩市域の市街化区域外人口です。

【H42 (2030)】48,775人

【H47 (2035)】45,205人

【H52 (2040)】41,353人

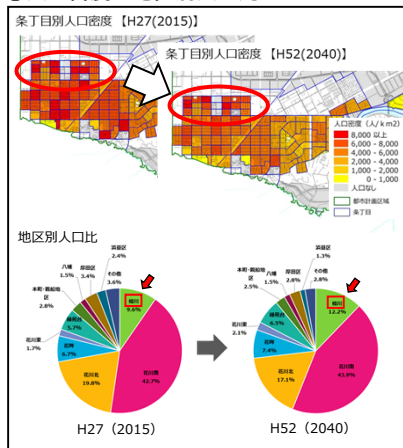


資料：平成27(2015)年国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

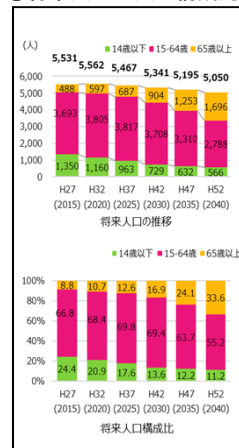
2

1.樽川地区

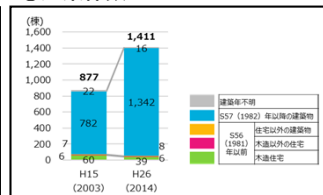
①人口密度と地区別人口比



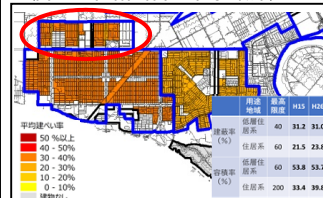
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26低層住居系の平均建蔽率)



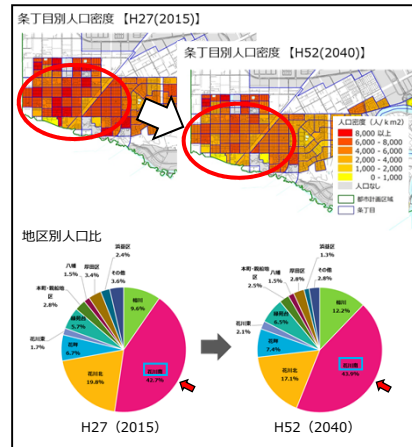
⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減
地区別人口比：H27(9.6%)⇒H52(12.2%)で2.6%上昇
将来人口：H27⇒H52で約▲480人(▲8.7%)
将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は約半分となり、65歳以上は約4倍
15-64歳はH52において急減
建築棟数：H15⇒H26で530棟増加でほぼ昭和57年以降の新耐震建築物
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が微増

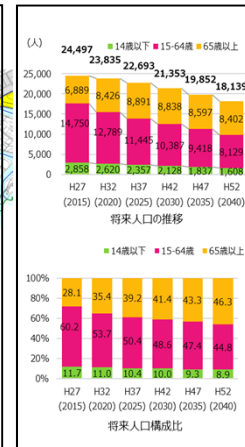
3

2.花川南地区

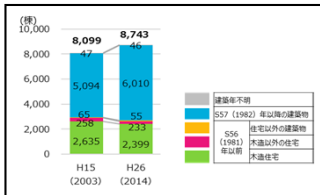
①人口密度と地区別人口比



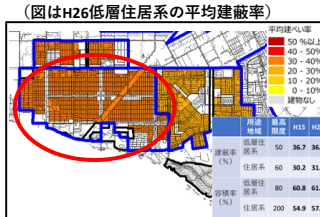
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率



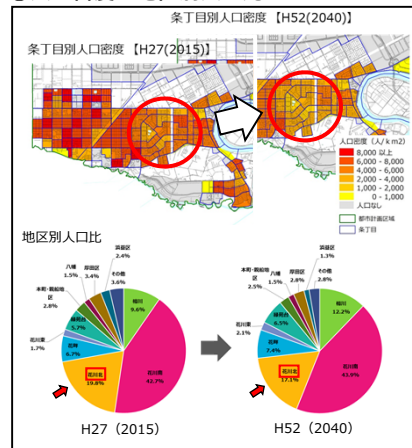
⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減
 地区別人口比：H27 (42.7%) ⇒H52 (43.9%) で市内の人口の4割強を占める
 将来人口：H27⇒H52で約▲6,300人 (▲26.0%)
 将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は微減、15-64歳は減少し、65歳以上は約1.6倍
 建築棟数：H15⇒H26で約640棟増加で昭和57年以降の新耐震建築物への移行が進んできている
 平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で住居系用途地域で微増

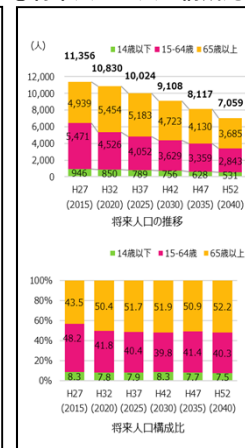
4

3.花川北地区

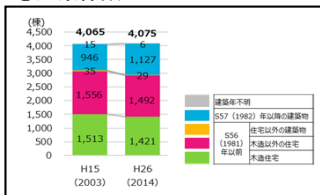
①人口密度と地区別人口比



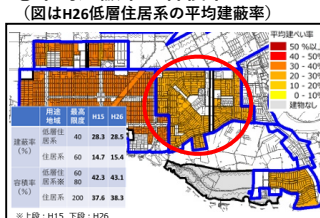
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率



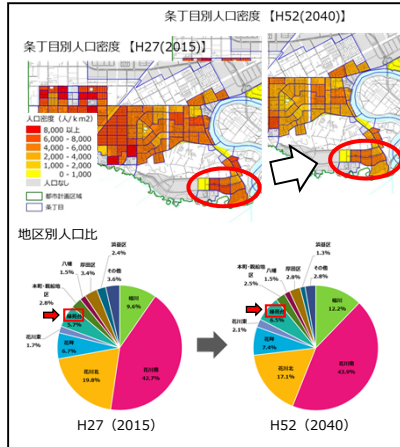
⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減
 地区別人口比：H27 (19.8%) ⇒H52 (17.1%) で減少予測だが市内における人口割合は以前高い
 将来人口：H27⇒H52で約▲4,297人 (▲37.8%)
 将来人口構成比：H27⇒H52で15-64歳、65歳以上に多少の変化が見られる程度でほぼ同じ割合
 建築棟数：H15⇒H26でほぼ同数、昭和56年以前の木造住宅 (旧耐震) は微減
 平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が微増

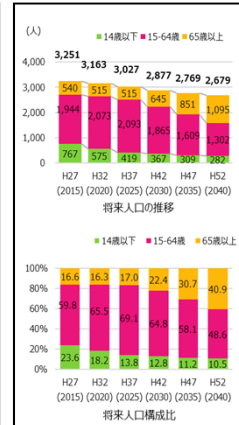
5

6. 緑苑台地区

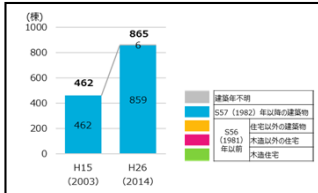
①人口密度と地区別人口比



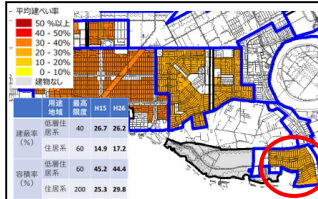
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



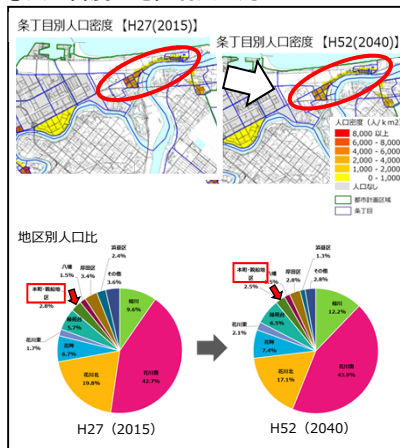
⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減
将来人口：H27⇒H52で約▲570人 (▲17.6%)
将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は約半分となり、65歳以上は約2.5倍 15-64歳はH37をピークに減少
建築棟数：H15⇒H26で約860棟増加で昭和57年以降の新耐震建築物
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で住居系用途地域で増加

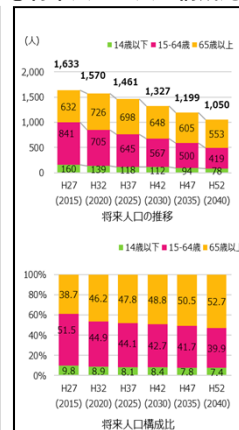
8

7. 本町・親船地区

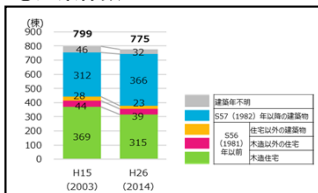
①人口密度と地区別人口比



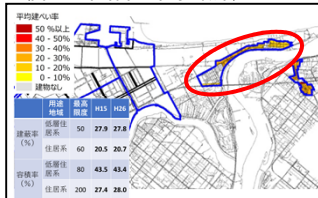
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減
将来人口：H27⇒H52で約▲580人 (▲35.7%)
将来人口構成比：H27⇒H52で15-64歳は減少し、65歳以上が占める割合が過半を占める予測
建築棟数：H15⇒H26で微減、昭和56年以前の木造住宅 (旧耐震) も見受けられる
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26でほぼ変化なし

9

